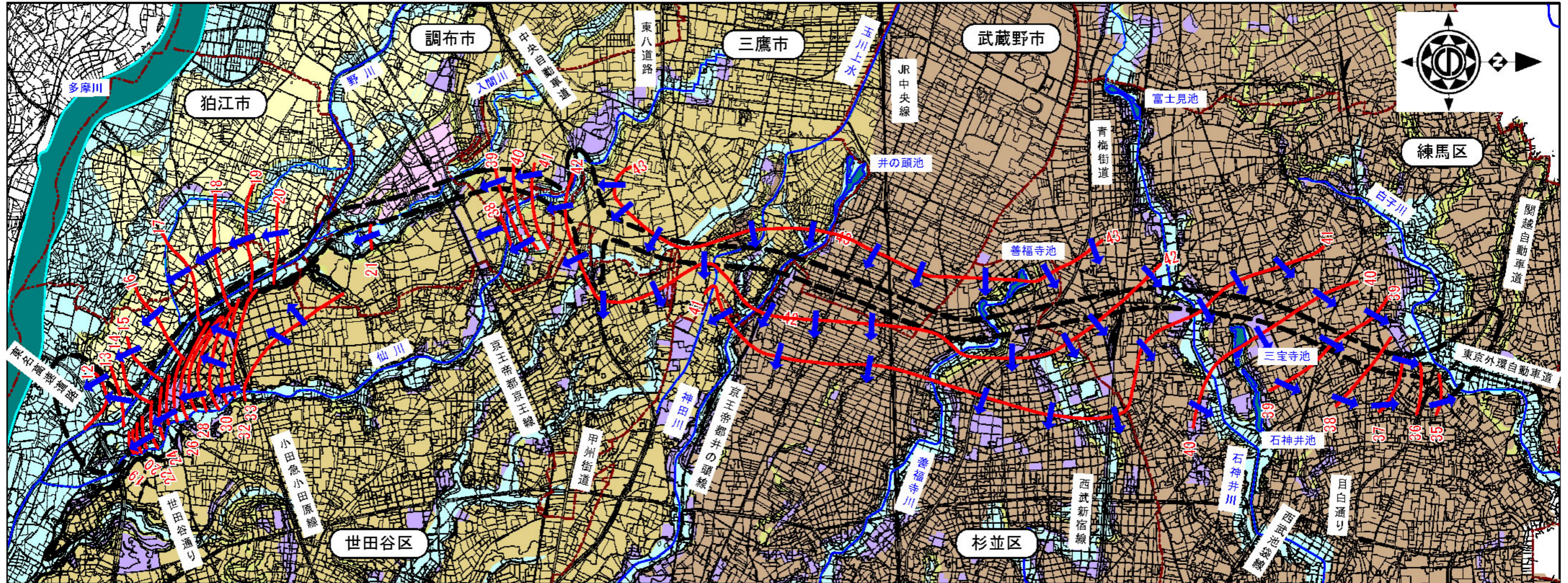


# 浅層地下水調査

立川礫層や武蔵野礫層にある浅層地下水は、設置した地下水位観測孔の地下水位データに加え、周辺地区の防災井戸や、湧水の測定を行って、浅層地下水位標高と移動の方向をまとめました。  
 なお、このデータは、冬期の湧水期のデータであり、季節によって変動するものと考えられます。



浅層地下水の水位標高と移動方向

※) 標高は東京湾平均海面を基にした表示 (T.P.+m) を用いています。  
 本地図は、東京都デジタルマッピング地形図を使用しています。

## 浅層地下水の状況

- ◆ 浅層地下水は、路線全体に広く分布する武蔵野礫層と、野川沿い及びその右岸に分布する立川礫層の中に存在します。
- ◆ 武蔵野礫層中の地下水は、地表から約7~12mの深さに存在し、地下水の移動の方向は、次のとおりです。
  - < 野川沿い ~ 中央道周辺 > 全体的には、北西 → 南東方向ですが、国分寺崖線の近くでは北東 → 南西方向となります。1日に約30~40cmで移動しています。
  - < 中央道周辺 ~ 青梅街道周辺 > ほぼ地形に沿うように、西 → 東方向です。1日に約10~40cmで移動しています。
  - < 青梅街道周辺 ~ 関越道周辺 > 白子川の低地に向かって、南西 → 北東の方向です。1日に約10~40cmで移動しています。
- ◆ 立川礫層中の地下水は、地表から約3~5mの深さに存在します。地下水の移動の方向は、ほぼ野川に沿った方向です。1日に約20~40cmで移動しています。

## 凡例

- : 地下水位の標高 (T.P.+m)
- : 地下水の移動の方向

### 地形区分

色	地盤
	主な人工改変地
	低地部
	崖・斜面
	立川面
	M3面
	M2面 武蔵野面
	M1面
	下末吉面